



海外短期実習

グリーンアジア国際リーダー教育センター 助教
前 奈緒子

平成26年度グリーンアジアのカリキュラムである産業実践(Ⅰ)と産業実践(Ⅱ)として、3月10日～15日までタイへの短期実習を実施した。参加者は、グリーンアジアの学生が19名、キャンパスアジアの学生が1名、新炭素資源の学生が8名、教員やスタッフが10名の38名である。

タイ実習の初日(3月11日)は首都バンコクの中心部にあるマヒドン大学理学部パヤタイキャンパスを訪問した。午前中はお互いの大学の紹介を行った後、それぞれの大学の教員による研究に関する講演が行われた。午後からは双方の学生8人がモデルセミナーで様々な分野の発表を行った。異分野の学生にも理解しやすい発表を行うという工夫がなされたことにより、活発な質疑応答や議論が行われた。様々な分野の研究アプローチに触れることにより、学生は新たな視点を得られたと考えられる。また、それと同時に学生はキャンパス及び研究室ツアーを実施し、タイの学生生活や研究室の様子を学んだ。

2日目(3月12日)の実習では、首都バンコクの中心から少し離れた場所にあるマヒドン大学サラヤキャンパスを訪問した。午前中はマヒドン大学の有機化学、高分子化学の分野の教員や学生が集まり、マヒドン大学側は高分子化学工学部の教員や研究活動の紹介、九州大学側はグリーンアジア・新炭素資源学・キャンパスアジアの説明を行った。その後、双方の教員による講演や学生13人によるモデルセミナーを実施した。前日に続き、異分野の研究発表がなされたが、内容を理解しやすい説明であったため、双方の学生がそれぞれの分野の研究に興味関心を持ち、積極的な質疑応答や議論が行われた。午後は高分子化学工学部の研究室及び実験室の見学を実施した。タイの基幹産業となる天然ゴム、合成ゴムに関する高度な研究が印象的であった。学生もゴムに関する実験のデモンストレーションを見学し、それに関する情報に深い興味関

心を抱いていた。その後、バスに乗ってキャンパスツアーを行った。そこでは、研究以外にも活発なコミュニケーションが行われた。タイでの学生生活やキャンパスの様子を知ることができる非常に貴重な経験となった。

3日目(3月13日)の実習では、首都バンコクから車で1時間半ほどのChonburi地区にある「ダイキン インダストリーズ タイランド」を訪問した。まず、ダイキン インダストリーズ タイランドの説明を映像とともに受けた。その後、トレーニングセンターと組み立て工場の見学を行った。トレーニングセンターでは、工場で働く適正があるかどうかの様々なテストや事故を起こさないための徹底的な教育がなされている。それに合格後、各工程の組み立て作業をトレーニングし、実際の現場に配属される。ここではタイ人の性格に特化した教育がなされている印象を受けた。組み立て工場は手作業の部分以外は全てコンピューター管理されており、2種の組み立て方法で様々な国の型を混合して組み立てている。そのとき、ミスが起きないように管理も徹底されていた。人の手が確実に必要な部分以外をオートメーション化することで、高効率で高品質な製品を製造していると感じた。また、環境対策も各種認証を取得するほど、温暖化に関して省エネ技術を取り入れていくといった形でリードしており、日本のダイキンと同等の意識で工場経営がなされている。また現地に開発部門をおいたことにより、環境にも配慮した地域特有の機能を装備した製品を製造すべく、年々改良されているということも感じられた。

工場見学後は現地スタッフとの質疑応答が行われ、学生は「環境に考えたうえで、今後どのようなことに取り組んでいくのか」「改善という言葉が浸透しているが、それを実施するのにどれだけの苦労があったか」など積極的に質問し、有意義な議論を行うことができた。

